

前 号 目 次

遠藤周作文芸とキリスト教 —— 『沈黙』に至る道……………細川正義

『醒睡笑』に関する一考察 —— 作品中の韻文から……………西浦和稔

* ————— *

義務としての幸福 —— カントにおける最高善について……………榎本庸男

ルーモールと『料理術の精神』……………加藤哲弘

ヴィルマンにおける美的感覚と教育的努力について……………武安宥

擬態語動詞の統語構造……………影山太郎

『人間喜劇』における版画^{イゾット}……………中谷拓士

depuis が導く時況節における現在形の使用……………曾我祐典

カミュの作品にみられる恋愛観、結婚観……………東浦弘樹

—— 『追放と王国』を中心に……………木野光司

Faszination Automat……………木野光司

—— Erscheinungsformen in Europa und Japan……………木野光司

現象学の根本動機 —— ハイデガーの存在論とラスクの論理学……………西尾大樹

夢二とキリスト教……………小嶋洋子

—— 「竹久夢二抒情画展覧会」(一九一八年)をめぐる……………小嶋洋子

イギリス、パブリック・スクールにおける……………西村径展

スポーツの教育的価値……………西村明夫

東ドイツの日常生活空間 —— ホーネッカー前期時代……………木村明夫

オペラ『アラベラ』をめぐる……………藤田麻理

—— ホーフマンスタールの描く現代的女性としてのアラベラ……………藤田麻理